

Ⅰ 次の文章を読んで、後の問い（問１～１１）に答えよ。（配点 75）

ア

教養主義の衰退がもたらした、一九七〇年代以降現在に至る大学生を嘆かわしく思うかもしれない。読書もしないし、教養もない、と。かれらの教養はコンテナー的教養、つまりあたりさわりのない教養、いや教養ならぬ世渡り術にすぎない、と。しかし、一九七〇年ころまで存続した大学生を中心としたキャンパス教養主義も体験者として反省してみれば、それほど誇められたものでもないようだ。

甲

ただし、読書することによる、甲の追求や人格の向上、社会の改良という気持ちがあつたけれど、岩波文庫のそれを読んだが、お前は読んでもないからか、はては何冊読んだか知識の量を競い合うようなこともかなりあつた。じつくりと文化を「味わう」というのではなく、とにかく知識を「消費する」という志向が勝つていなかっただろうかと、自分を含めて反省する。したがって教養主義から生まれるのは、自由闊達な教養人はせいぜい選った人間像で、教養「主義者」としかいふことがないものだった。

一九八〇年代のニエアカ・アームは、乙の乙が最後に「隠遁」しようとして近代日本の教養主義が没落するときの最後の輝きでもあつたが、そうであればこそ、教養主義と教養主義者の欠点が露呈したものであつた。

ニエアカとはニエー・アカデミズムの略で、一九八三年の浅田彰の『構造と力』が知的青年のバイブル化し、つぎつぎと類書あるいは、フランスの構造主義やポスト構造主義の翻訳書によって生じた「新」教養主義（アンチ・アカデミックというアカデミズム）アームである。一九七〇年代に壊滅した教養主義がフランスの現代思想という新しい衣装によって復讐したアームだった。

Ⅰ

このころのニエアカに染まった学生の多くは、難解な本を読むという点ではかつての教養主義青年に似てはいたが、かつての教養主義青年に、エリート主義と紙一重の、建前としてあつた人格主義や社会改良主義がなくなつていたことが大差を過している。難解な用語と論理を構えるのが得意という態度偏執のような頭のよさを誇る教養主義だった。かつての大学生の教養主義が低学歴大衆への差別化やようなところがあつた。「あの人なら（大衆大衆生）、サラリーマンになるのじゃ」と。「ひけらかす」教養にこそ「言はず」教養めいていた。

だから、このような問題青年がキャンパスの中で、変わり者や知りなタクとして排除する・排除される者となり、呼ばれたことは当然といえば当然なのである。ニエアカという最後の教養主義アームにこそ教養主義と教養主義者の欠点が発見されていくつた乙の所以である。

このようにみれば、教養主義の没落は必ずしも嘆かわしいわけではない。むしろ教養と教養主義、教養人と教養主義者は似て異なるものであることを教えてくれるからである。

乙

乙もはたふれたように、教養主義は文化を味わうというより、所有しようとする志向が強い。したがって、文化を深いつもで味わうことのできる人が教養人であり、知識量を自指す人が教養主

業者であることになる。教養人は文化を味かう人であり、教養主義者は文化を求め込む人である。教養人は嗜み系で、教養主義者は求め込む系やひけらかし系と言ひ換えてもよいだろう。

こうみてくると、これからの教養を歴史に探るとしたら、教養主義の原形となった『三太郎の日記』(岡部次郎)や『書の研究』(西田幾多郎)を読む旧制高等学校校生(男子)ではない。
Ⅱ 同時代の高等女学校(旧制の女子の中等教育機関)生の教養の形にひとつの範があるように思える。

彼女たちにとって、高等女学校の学歴は必ずしも立身出世につながるわけではなかった。卒業後、職業婦人になったり、さらに上級学校に進学したりする道は狭かった。多くの場合は、結婚による主婦の道がまっていたにすぎない。そうであればこそ、彼女たちの教養は立身出世や大衆を差越化することと切斷されたふくよかの知への愛だけが誘因だった。
Ⅲ 彼女たちの教養は、外国小説の読書やモダンでハナハタな近代的スポーツ、西欧音楽の鑑賞だけでなく、伝統的な和歌、習字、手芸、琴、生け花、茶の湯にまでわたっていた。

大正時代半ば以後は、高等女学校卒業生が増え、「立身出世亭主と教養女医」という言葉が流行した。高等教育卒業の男性は社会にでると、教養主義をかなり拒み、遊藝や遊花節だけの愛好家となり、立身出世に邁進するフクツツと化していくのに対し、女房のほうは、吉原屋宇の小説を読んだり、演劇や音楽などの世間を愛し、そこに楽しみを見出していたからである。

彼女たちの教養が、古典の読書を中心とした旧制高校的「教養」主義と違っているのは、読書中心主義ではなかったことである。そもそもどれだけ知識量が増えたといふような主義でもなかった。旧制高校的な漢字の硬い「教養」(知的教養)に対比して言えば、軟らかな平仮名の「まようよう」(詩的教養)ともいうべきものだ。

感情の教養

これからの社会が目指すべきは、頭だけの漢字的教養主義ではなく、身体化された振る舞いまでに至るこうした「まようよう」(教養)ではなからうか。潤み込む系ではない、嗜み系の教養だろう。教養については、教養主義者の「ひけらかす教養」(あの人は、すぐ教養をひけらかす)と教養人の「邪魔をする教養」(「教養が邪魔をしてあんなことができない」)とがあるが、求め込む系はひけらかす教養に、嗜み系は邪魔をする教養に対応している。

たしかに「邪魔をする教養」は心を打つ。「教養が邪魔をする」は、リアクション(自己≠自己目録)にもとづくかんたんやを要する教養で、教養人を侮れたノースである。しかし、全意は必ずしも格闘だけにとどまらな。押し強い人という否定的意見も聞いている。教養人は、品のないこととはしないが、自己主張を控えるから頼みにならないといふ意味合いもある。

この点を考えてときに評論家福田恒存(一九二一―一九四)の教養論が思い出される。福田は、「教養とは、節度である」と言い、教養のフクツツイがリアクションやカンシユにあることを認めているが、同時に教養≠節度は、控える力だけでなく、他者に自己の意思を押し出す力でもあるとしている(『幸福への手帖』新潮社、一九五六年)。「正義、われにあり」という声論に迫る品のない自己主張は、相手を動かすこととはできない。
Ⅳ こそなることが多い。教養ある人だけが節度をもった自己主張である。武勇となるのがエーリアである。エーリアは余裕≠節度を

もつた彼女の自己主張となる。だから、エーゼトは「その人の教養を物語る」と福田は言うのである。啓蒙としての教養と教養としてのエーゼト、つまり「啓蒙の教養」は、これからの教養を考へる大事な視点になると思うのである。

(竹内洋『大卒の大地』)

問 1 傍線部 a「一重」の「重」と同じ読み方をする「重」が、次の①～⑨のうちから、一つ選べ。解答番号は **1**。

- ① 重_{ジュウ}宣 ② 重_{ジュウ}借 ③ 重_{ジュウ}蘭 ④ 白_{ハク}重 ⑤ 身_ミ重
⑥ 重_{ジュウ}創 ⑦ 幾_キ重 ⑧ 重_{ジュウ}罵 ⑨ 軽_{ケイ}重

問 2 傍線部 b「重以」の読みとして正しいものを、次の①～⑨のうちから、一つ選べ。解答番号は **2**。

- ① いい ② いわれ ③ しょい ④ しょじ ⑤ いえらつ
⑥ しゅし ⑦ ゆえん ⑧ すい い ⑨ ながれ

問 3 傍線部 c「ト」のカタカナを漢字に直せ。カタカナの後に示した選別肢のうちから、最も適当なものを選び、それぞれ一つずつ選べ。ただし、c「ト」それぞれについて完全しなければ加点しない。解答番号は **3** ト **10**。

- c ム シ ヨ ウ
ム ① 武 ② 夢 ③ 牟 ④ 無 ⑤ 謀 ⑥ 六 ⑦ 霧 ⑧ 務 ⑨ 矛 **3**
- シ ヨ ウ ① 性 ② 省 ③ 小 ④ 少 ⑤ 証 ⑥ 消 ⑦ 勝 ⑧ 償 ⑨ 承 **4**
- d ソ ク シ ャ ヌ
ソ ク ① 綴 ② 族 ③ 賊 ④ 属 ⑤ 栗 ⑥ 測 ⑦ 足 ⑧ 俗 ⑨ 側 **5**
- ブ ヅ ① 勿 ② 佛 ③ 仏 ④ 壁 ⑤ 物 ⑥ 払 ⑦ 振 ⑧ 滯 ⑨ 復 **6**
- e ガ ケ シ ャ ヌ
ガ ケ ① 顧 ② 元 ③ 頑 ④ 敵 ⑤ 廣 ⑥ 眼 ⑦ 合 ⑧ 丸 ⑨ 玩 **7**
- シ ャ ヌ ① 考 ② 就 ③ 示 ④ 収 ⑤ 衆 ⑥ 集 ⑦ 執 ⑧ 習 ⑨ 蒞 **8**

f シンズイ

シン ① 侵 ② 芯 ③ 新 ④ 身 ⑤ 進 ⑥ 真 ⑦ 伸 ⑧ 信 ⑨ 浸

9

ズイ ① 瑞 ② 體 ③ 水 ④ 推 ⑤ 衰 ⑥ 透 ⑦ 隨 ⑧ 隋 ⑨ 粹

10

問 4 空欄 **I**、**III** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑨のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同一番号は一度しか使えない。また、完全しなければ加
点しない。空欄 I の解答番号は **11**、空欄 II の解答番号は **12**、空欄 III の解答番号は **13**。

- ① すなわち ② なぎなら ③ しかも ④ とりわけ ⑤ だから
⑥ しかし ⑦ ちゃん ⑧ むしろ ⑨ きこと

問 5 空欄 **甲**、**乙** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は **14**、**15**。

甲

- ① 知覚意 ② 知識量 ③ 功名心
④ 心持体 ⑤ 真善美 ⑥ 好奇心

14

乙

- ① 自助努力 ② 他力本願 ③ 主客転倒
④ 自己満足 ⑤ 他者依存 ⑥ 付帯質問

15

問 6 傍線部 A「ニー・アカ・アームは、難解本を手にし、キャンパスの中の大衆大学生を驚嘆させるようなところがあった」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、一つ選べ。解答番号は 16。

- ① ニー・アカ・アームに読まされた学生の多くは、難解な本を読むことを通じて人格の向上や社会の改良を目指していた点で、大衆大学生よりも遥かに教養人に近い存在となっていた。
- ② ニー・アカ・アームに読まされた学生の多くは、教養主義の原典となる難しい古典を多読していたため、大衆大学生のことを教養が足りない学生と見下しているところがあった。
- ③ ニー・アカ・アームに読まされた学生の多くは、フランスの構造主義やポスト構造主義の難解な本に傾倒することで、大衆大学生のことを変わり者やタカとして排除していた。
- ④ ニー・アカ・アームに読まされた学生の多くは、構造主義やポスト構造主義に関する難解な本を読むことで、自分たちは大衆大学生よりも価値観が遥かに高いと自慢していた。
- ⑤ ニー・アカ・アームに読まされた学生の多くは、フランスの現代思想に関する難解な本を読むことで、教養主義の古典しか読まない大衆大学生のことを見下しているところがあった。
- ⑥ ニー・アカ・アームに読まされた学生の多くは、フランスの現代思想に関する難解な本を読むことで、大衆大学生のことを自分たちとは違うと見下しているところがあった。

問 7 傍線部 B「彼などによつて、高等女学校の学歴はさうも立身出世につながるわけではなかった」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 高等女学校を卒業しても、卒業生がどんどん増えたため、高等女学校卒という学歴がありふれたものとしてしか評価されなかったから。
- ② 高等女学校を卒業しても、社会にでて職業に就いたり大学に進学したりする選択肢が少なく、専業主婦になる機会が多かったから。
- ③ 高等女学校を卒業しても、当時の男尊女卑社会にあっては、高等女学校卒という学歴がありふれたものとしてしか評価されなかったから。
- ④ 高等女学校を卒業しても、身に付ける教養が読書中心で実業にはなれなかったため、知識量が男子に比べて低く見られたから。
- ⑤ 高等女学校を卒業しても、身に付ける教養が読書中心で実業になつていなかったため、社会で出世するための教養はならなかったから。
- ⑥ 高等女学校を卒業しても、教養を身につけられなくなり、男性のように立身出世に適するところではなかったから。

問 8 傍線部 C「昨み采の教養」に最も当てはまらないものを、次の①～⑥のうちから、一つ選べ。解答番号は 18。

- ① バタフライ (水原)
- ② 『版名手本島臣殿』 (武野燭)
- ③ 『善の雄策』 (西田幾多郎)
- ④ 初釜 (茶理の行舟)
- ⑤ 『花魁語』 (吉屋信子)
- ⑥ 『カルメン』 (オペラ)

問 9 空欄 ア に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、一つ選べ。解答番号は 19。

- ① ニエーアガ・アームの功罪
- ② 教養主義から新教養主義へ
- ③ 教養主義者としての教養
- ④ 奥かましい教養主義の没落
- ⑤ キャンパス教養主義の反省
- ⑥ 教養主義者と教養人は似て非なり

問 10 空欄 イ に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 潤め込み采と暗み采
- ② ひけらかし采の衰え
- ③ 味わい采より所習采
- ④ 立身出世に導く教養
- ⑤ 読書中心主義の限界
- ⑥ 高等女子校生の不幸

問 11 本文の内容に合うものを、次の①～⑥のうちから、二つ選べ。ただし、解答の順序は問わないが、空欄をふくめなければ加減しない。解答番号は 21、22。

- ① 一九八〇年代のニエアカ・ブームのおかげで、近代日本の教養主義はフランスの構造主義やポスト構造主義という新しい衣装をまといつて再び輝きを取り戻したため、現在でも教養主義青年が大学キャンパスの中で大衆大学生を培養しながら生き続けている。
- ② フランスの構造主義やポスト構造主義の影響を受けたニエアカ・アカデミズムが一九八〇年代にブームとなり、一時的によみがえつたものの、教養主義は一九七〇年代以降現在に至るまで、ひたすら没落の道をたどっており、まことに嘆かわしい限りである。
- ③ 教養主義の古典とも言える『三太郎の日記』や『善の探究』などの書を読むことで知識量を増やしていった旧制高等学校生も大学を卒業して社会になると、教養女房の影響を受けることで教養主義をなだり捨て、講談や浪花節を愛好する嗜み系の教養人になっていった。
- ④ 一九七〇年ころまでの大学生は知識を「所有する」という志向が強く、知識量を競い合いながら図書館などの教養書を読んでいたが、一九七〇年代以降の大学生は文化を深く味わうことよりも教養する目標したため、教養主義は没落することになった。
- ⑤ 一九七〇年代以降の教養主義はフランスの現代前衛をまとうことで「新」教養主義としてよみがえろうとしたが、人格主義や社会改良主義を欠いていたがために、低学歴大衆や大衆大学主から受け入れられず、結局は没落していったことになった。
- ⑥ 一九七〇年ころまでを築いた大学生を中心とした教養主義は、じつくりと文化を「味わう」というのではなく、とにかくにも知識を「所有する」という志向が勝っていたのではないが、筆者は「新」教養主義の体験者として反省の思いを強くしている。
- ⑦ 知識量の増進を追求することで文化を深く味わうことのできる嗜み系の教養人が持つ教養は「邪魔をする教養」とも言えるものであり、この点に逆めはみ系の教養主義者が持つ「ひけらかす教養」とは異なっており、前者を持った自己主張をエーゼアを可能にする。
- ⑧ これからの社会が目指すべき教養を歴史に探るとした場合、古典の読書を中心として知識量を競い合つた旧制高等学校の湖め込み系、ひけらかし系の教養ではなく、立身出世とは切斷された同時代の高等女学校で見るこがむきた嗜好系系の教養にひつきの趣がある。
- ⑨ 「ひけらかす教養」を持つ湖め込み系の教養主義者とは異なり、「邪魔をする教養」を持つ嗜好系の教養人は、他者に自己の意思を押し出す力をもてる教養を備えているため、エーゼアをひとつの電撃戦とすることで前衛をもつた自己主張をなすべしとならる。

II 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。（配点 75）

計算能力について

甲

それは計算機の専門家に問の専門家に相談してもらわないで、私にはよくわからない。しかし、素人でも、もしかすると、正確なのではないかというよりは、いくつか差を置く。たとえば、計算機は計算能力から始まったが、随では計算能力が最後に生じてみた、というのだというのである。

私も何個か、小さな計算機を持っている。おみやげに買う機会が多分から、すでに数個たまっていた。こうした計算機が、比較的簡単な原理で動くらしいことは、私にもわかる。そういう簡単なことが、動物にはできないのか。でもないらしい。

ヒトの計算能力を養ってみる。この計算能力は、はたしてどこで発生したもののか。

子供に計算を教えるのは、言語理解能力ができてからになる。ゆえに、動物は一般に計算能力に乏しいはずである。計算を教える際には、まず数の数え方を教える必要がある。数え方がわかると、つぎに簡単な計算を教える。小学校に入ると、これとは丸丸を習へ。これを習らなると、掛け算がたいへんをやりにくくなる。これら二つはよく習り前のことだ。いまだに私が指導する必要はない。この二つの何処が問題かといへば、言葉にしても数物化にして、ある時期から「教えるむ」ということである。

教えなければならないといふことは、計算のような能力には、終局的な部分がかなり含まれている、ということである。言語の構築は、言語の基礎には、ある構文があるという言い方をする。その構文は、私はしつこく問の中にもう書いている。構造主義における構造とは、しはしは脳の構造に他ならない。 **I** 私は、その構造の存在を「前提」としているわけはなる。「教えられる」といふ、「基礎構造の成立」とは、同時に定まる過程かもしれないからである。ウィットゲンシュタインに言われるまでもない。

数学の場合にも、そういう基礎構造はある。あるはずである。計算の場合なら、まずその基礎構造は、日本語の場合なら「ひとつ」とか「いふ」という二つはが代入される。西洋であれば「ワン」とか「ウー」とか「スイム」となである。つぎが「ふたつ」、あるいは「二」。以下同様。よく教えるくても、このくらいは難題である。たいていの子供はすぐに覚える。だから、この種の基礎構造は、ほとんどの子供の脳にはあるらしい。それがないで、この子は理解ではないか、と親はおおに心配する。ただし、動物はこれにはほとんどない。軍大産婆師のサブバンシーが、らまで教えるという話である。ところが、完全に一人で放つておいた、教えられるようになるするものかもしれないが、多くの子供は教えないであらう。教えることを「産屋」した子供も、共通の教訓を利用しないで、話が通じないうことを問もなく発見するはずである。

このように、発生時に受け取っている性質は、ふつうは進化的に新しいものであることが多い。計算能力は、数学では時々ふたに言われることがあるが、私から見ると、これはたいへん立派な能力である。なぜこれがたいへん立派な能力かという点、いまのふたつに比べて、それを **II** に教えるまではならないからである。つまり、生物として養える、そのまま「動物的に」生きているなら、とりあえず不要な能力である。そんなことはない、子供の数が何人

かわからなくとも困るだろう。そういう主張があるかもしれないが、むしろ困らない。個体識別の能力と、それに伴う記憶力があればよい。ほとんどの哺乳類は、これで間に合わせていると思う。

計算のような能力は、**Ⅲ** 多様な現象に対しては可用能である。ということは逆に、特定の用法がない。あるいは、そのような機能は、それを発現する状況上の必然性を欠く。このような意味で一義的ではない能力は、一般に動物が示す機能し、対照的な面があることは御存知の通りである。われわれの場合でも、食や性に関する基本的機能つまり「動物的機能」は、特定の限定された状況下で、**Ⅱ** つまら、機能が生じる状況と、機能の進行の連続性に厳重な規定があり、変更の余地がまったくない。ゆえにそこでは、思考の必要もない。計算能力は、その過程の^{メカニズム}ゆえに、「動物的機能」と似たようなものと誤解される可能性はあるが、状況の^{義理}なところにはない。それに、計算が^{メカニズム}なものであることは、御存知のとおりである。

ヒトにはそれだけのことが要るか

生をていくために、これはなら最低とそれだけの単語数が必要かということ、私はドイツ人の子供から習うことが出来る。

この子の問題は二人とも医者で、私の友人だった。しかし、この二人の子供の育て方とをい、われわれ日本人から見たら、ほとんどデタラメに近かった。医者のソヨウがあるだけに、かえってタチが悪い。主人公である娘は、当時一歳半くらいだった。外国の家は靴で上がる。それでジウタンが敷いてある。その上をこの子が這う。それはまあいい。ジウタンの上に落ちていて、座えるような小さなものは、ひとまず口に入れる。ゴハンでもあろうが、食物のカスだろうが、いささか構わない。親に一度注意すると、食べられないものなら本人が吐き出す。放っておいてくれと言へ。我が家に来に機会に、大人たちにテンブラを出したことがある。ほかにも子供用の食物はあるというのに、この娘がテンブラをむやみに食う。これも注意したが、やはり放っておけと言へ。翌日恐る恐る電話した。いま手術をしているところだ、と母親が電話口で平然と述べた。

オーストラリアに住んでいた頃、この子を何日かあずかっていたことがある。三つだけ、^{これは}は言えた。食物を食うと指さして、「アヤハ」と言う。「あだしのだ」と主張するわけである。それが同時に、食物の代名詞になっている。食物を食う終えると、「モア」つまり「もっとくれ」と言う。安全な言葉となる。食える心配がない。あと一つ、^{どうして}と食えどのか、男を食ると「バク」と言う。社会的な主張としては、これで十分である。これはで、いくつになっても生をてらなぬ。この子を喰うと、母が「お前の子だな」と確認出来る。父親にされてはたまらぬ、と^{キチン}と^ハハを米にするのである。子供に英会話を教えるなら、この三語で十分であることを、この時に知った。一昨年のこのドイツで出会ったなら、一人前の娘に成長しており、もっともらしい顔をしていただ。

動物として考えるなら、あとの言語能力は、計算を含めて、私はほぼ無用の長物に近い感でている。無用の長物が生じたのは、**Ⅳ** 脳のおかげである。

それが意識とどんな関係があるか。計算機は、脳の進化過程でもっとも遅く出現した能力だけを、いわば取り出して使っているものだ。そういうことが言いたかったのである。人間が計

算機のような能力だとして、創造的ではないとか、いまでは機械でもできることをなべてヒトがやるか、と主張する人もある。それはそれでよいとして、だからといって、計算のような能力がわかって **V** だと理解してもらっては困る。

特定の状況に対する生存性のない、こうした機械的な能力が、もし進化の最初期の脳に設置したかったとすると、いまの計算機の設計と同じことをしなくてはならなかったであろう。たとえば、その能力の上限を定めることである。そんなものが一義的に定まらなければならない。上限まで利用しなければ、それは 三才三才 だが、それも始めにあつたはずがなる。そんな余餘はない。こういう能力を最初から脳に持たせるとは、大きな脳を前提にしなくてはならない。しかし、進化の過程でそれができるはずがなる。脳は、必要最小限の神経回路から始まつたはずだからである。

ただし、そういう余餘の能力の発生が、進化の過程で一回だけ、かなりの規模で起こつたらしい。それはヒトの脳が正したときである。つまり、われわれの脳は、九十九の能力に象徴されるような、**B** 状況依存性を欠く無条件能力を、多数ためこむことになったのである。

(養老孟司「唯脳論」)

問 1 傍線部 a、e のカタカナを漢字に直せ。カタカナの後に示した選択肢のうちから、最も適当なものを、それぞれ一つずつ選べ。ただし、a、e をそれぞれについて定着しなければ加算しない。解答番号は **23**、**32**。

a ゲンミン

ゲン ①限 ②減 ③言 ④蔽 ⑤現 ⑥玄 ⑦原 ⑧幻 ⑨元

23

ミン ①貫 ②三 ③簾 ④光 ⑤尤 ⑥密 ⑦実 ⑧満 ⑨尤

24

b シエウシ

シエウ ①集 ②修 ③収 ④終 ⑤襲 ⑥舟 ⑦州 ⑧賦 ⑨秋

25

シ ①止 ②帥 ③史 ④支 ⑤士 ⑥指 ⑦始 ⑧視 ⑨旨

26

c ソンヨ

ソ ①祖 ②素 ③粗 ④旨 ⑤訃 ⑥粗 ⑦指 ⑧型 ⑨礎

27

ヨウ ①妖 ②勝 ③岩 ④衰 ⑤幼 ⑥平 ⑦痒 ⑧要 ⑨洋

28

d キョウコ

キョウ ①胸 ②強 ③境 ④鏡 ⑤協 ⑥鏡 ⑦恐 ⑧凶 ⑨郷

29

コウ ①攻 ②皇 ③荒 ④行 ⑤硬 ⑥更 ⑦好 ⑧厚 ⑨荒

30

e ショウヨ

ショウヤ ①情 ②讓 ③蒸 ④量 ⑤錠 ⑥粘 ⑦刺 ⑧糸 ⑨常

31

ヨ ①差 ②代 ③余 ④予 ⑤豫 ⑥号 ⑦預 ⑧世 ⑨夜

32

問2 空欄Ⅰ・Ⅲ・Ⅳに入る語として最も適切なものを、次の①～⑨のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同一番号は一度しか使えない。また、空欄Ⅱには指定がない。空欄Ⅰの解答番号は33、空欄Ⅲの解答番号は34、空欄Ⅳの解答番号は35。

- ① かならずしも ② きわめて ③ もつとも ④ おそらく ⑤ ちらに
⑥ それゆえに ⑦ ほとんど ⑧ ひるほど ⑨ ところどころ

問3 空欄Ⅱ・Ⅴに入る語として最も適切なものを、次の①～⑧のうちから、それぞれ一つ選べ。ただし、同一番号は一度しか使えない。空欄Ⅱの解答番号は36、空欄Ⅴの解答番号は37。

- ① 後天的 ② 動物的 ③ 原始的 ④ 機械的
⑤ 創造的 ⑥ 一義的 ⑦ 進化的 ⑧ 構造的

問4 空欄甲に入る文として最も適切なものを、次の①～⑦のうちから、一つ選べ。解答番号は38。

- ① 計算能力はいつ発生したか。
② 脳と計算機に共通する性質は何か。
③ 計算能力はヒトに必要な能力か。
④ 計算機と脳の基礎構造の違いは何か。
⑤ 脳と計算機とはどこが違うか。
⑥ 計算能力の発達過程に脳は関わるか。
⑦ 計算能力は言語能力と関係するか。

問 5 空欄 2 に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、
一つ選べ。解答番号は 39。

- ① 「機能的」な様相を呈しつつ進化する
- ② 「機能的」な行動を他人に取らせる
- ③ 「創造的」な物を作り上げ他人に示す
- ④ 「創造的」な能力を他人に知らしめる
- ⑤ 「言情的」な思考を人に足でつづける
- ⑥ 「言情的」な手続きに従って進行する
- ⑦ 「一義的」な能力を他人に示す
- ⑧ 「一義的」な思考しかできない

問 6 傍線部 A 「この種の基礎構造」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、
一つ選べ。解答番号は 40。

- ① 動物がもつことを自然と覚えるいうことによる構造
- ② 計算能力などを可能にする脳の情報処理の構造
- ③ 数字のことに誰もが理解することができる単純な構造
- ④ 教えられなくともよつてのみ身につく構造
- ⑤ 生まれながらにして人に備わっている構造
- ⑥ 計算機のようにごく簡単な原理で動くことによる構造

問 7 傍線部 B 「状況依存性をなく無様な能力」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の
うちから、一つ選べ。解答番号は 41。

- ① ヒトの持つ能力の中でも特に遅く発現してくる性質のものは、脳が進化していく過程の中
でも比較消滅していくから、脳の中において、あつてもなくともよい能力であるという。
- ② 特定の状況でもなくとも発現する能力は動物的に生じる限りでは無用なものであるが、多
様な状況下にも自由で優れた能力であるという。
- ③ 特定の状況でも手順をおって進められる計算のような能力は、動物のように個体識別能力
とそれに伴う記憶力さえあれば、必要のない能力であるという。
- ④ 子どもは完全語を数える概念「ア・エ・ハ」「モ・ア」「バ・バ」の三語で十分であるというは、
乳児期から徐々に発達する言語能力を考へれば自明のことであるという。
- ⑤ 言語能力と言語能力というのは、ヒトも機械もともなうという点で初歩的な能力と捉えられ
ており、しかも特定の状況でしか発現しない動物的な能力であるという。

問 8 本文の内容に合致するものを、次の①～⑧のうちふたつ、二つ選べ。ただし、解答の順序は問われないが、違えば加点しない。解答番号は 42、43。

- ① ヒトの計算能力が生まれたときにまったくゼロではないということは、哺乳類が最低でも我が子を数えられる程度の計算能力をもっていることからわかる。
- ② 子供に計算を教えるのは言語能力ができてからであるが、「ひとつ・ふたつ」程度の数値定であれば言語能力のまだ備わっていないたいいていの子供でもすぐに覚えることができる。
- ③ ヒトが持つ計算のような能力は、それを用いる状況上の必然性を欠いているのに対して、食や性に関する「動物的機能」は特定の状況下でしか発現せず、両者は対照的なものである。
- ④ 子どもが生まれていくために習得すべき必要な言語数が三語であるというのは、筆者がドイツ人の友人の子どもから教わったことである。
- ⑤ 脳の神経組織をモデルとした計算機は最近になって出現したモノであり、計算機が脳の最新部分であることを誰もが理解しなければならない。
- ⑥ ヒトの脳というのは機械のように精密なものではないため、それにかわる機械を作ったとしても誰にも判別がつかないことは、世間にある機械を見れば一目瞭然である。
- ⑦ 私たちの脳に生来的に備わっている計算能力はそのままでは不変な能力であり、ヒトが進化する過程の中で脳そのものが大きくなるに従って必然的に備わった機械的な能力である。
- ⑧ 特定の限定された状況下で発現しない能力の多くは、脳が進化する過程で必要とされたために備わったものであるが、現在では一般的な生物にとっては余分な能力とされている。